

道徳科における確かな資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントの研究

【研究代表者】伊澤真佐子（和歌山大学教職大学院）

【共同研究者】中山真弘（和歌山大学教職大学院）

田中千映（和歌山大学附属小学校）糸我直人（和歌山大学附属小学校）

梶本久子（和歌山市立楠見小学校）谷口聖人（和歌山市立楠見小学校）

山本会身子（和歌山市立松江小学校）豊田麗香（和歌山市立岡崎小学校）

宇治田乃（和歌山市立小倉小学校）田中美羽（和歌山市立宮小学校）

岩井和（和歌山市立三田小学校）坂本夏穂（和歌山市立八幡台小学校）

藤井香織（和歌山市立山東小学校）

1 はじめに

指導要領総説には、「多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要であり、こうした資質・能力の育成に向け、道徳教育は大きな役割を果たす必要がある」とある。道徳教育では、目標にもあるようによりよく生きるための基盤となる道徳性を養わなければならない。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要である道徳科の授業改善はもちろん重要である。それとともに、各教科・領域等における密接な関係を図りながらカリキュラム・マネジメントし、計画的発展的な指導によってこれらを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚や生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成しなければならない。前段階として今年度は、道徳科の授業をどのようにカリキュラム・デザインし、確かな資質・能力を育んでいくのかを研究することにした。

2 活動の概要

- | | |
|--|--|
| 6月：附属小学校の公開授業「じゃんけんぼん（公正・公平）の教材研究をした。 | 10月：各自が実践するとともに附属小学校研究会における2つの授業「ぼくのこと きみのこと」（個性伸長）「目の見えない犬」（生命尊重）の教材研究を行った。 |
| 7月：1学期の実践、岡崎小学校4年生「泣いた赤おに」（信頼・友情）小倉小学校5年生「手品師」（正直・誠実）について協議会をもつ。 | 11月：附属小学校研究会に参加し授業参観、協議会に出席した。2学期も、大学教員が松江、八幡台、岡崎小学校に行き、授業を参観し、カンファレンスを行った。 |
| 8月：カリキュラム・デザインをどのように実践していくかについて話し合った。 | 1月：各自の実践を報告し、成果と課題について話し合った。 |
| 9月：各自が立てた道徳科のカリキュラム・デザインについて協議した。 | |

3 まとめ

各授業実践では、子供たちが、自己の経験や他教科・他領域とつなげて発言し、自分事として探究している姿が見られた。これからも「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ために、教育活動全体を通して意図的、計画的に道徳教育が展開されるよう、カリキュラム・デザインの研究を進めていきたい。

4 共同研究者実践概要

実践者：豊田麗華(和歌山市立岡崎小学校4年1組)

児童の実態に即した学習計画
(フォーカスデザイン図)

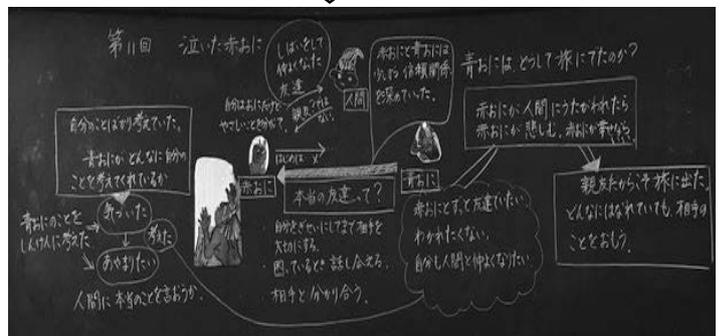
- 教材① 心の信号機(B 親切、思いやり)
- 実践の場 社会見学、縦割りそうじ、環境学習
- 教材② 心と心のあく手(B 親切、思いやり)
- 実践の場 他教科等
- 教材③ 泣いた赤おに(B 友情、信頼)
- 実践の場 休憩時間、水泳学習

(各授業のねらいは紙面の関係で省略)

誰に対しても公正、公平な態度で接し、相手の気持ちを思いやりながら、自分にできることやよいと判断したことを進んで行うことで、よりよい学級になると意識して選んだ教材と実践の場

教材③「泣いた赤おに」の実践を振り返る。

授業の最初から班学習の形で取り組み、自分たちで今日考えたいことを「青おにはどうしてそこまで赤おにのためにできるのか」と決めた。その後、赤おにの気持ちを中心に話し合った。中心発問となる「青おにからの手紙を読んで赤おにはどう思ったのか。」を、個人で考えた後、全体で対話し、「本当の友達って?」と焦点化していった。

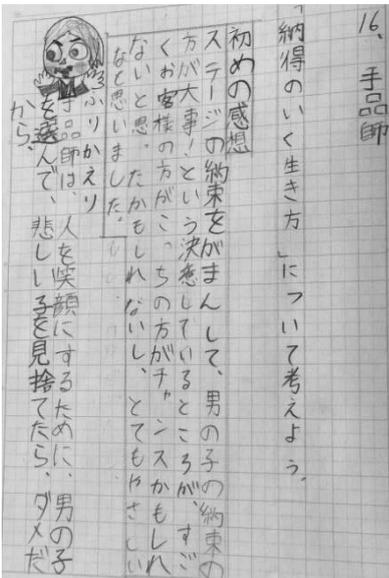


実践者：宇治田乃(和歌山市立小倉小学校 5年B組)

自分の人生でなにを大切に、どう生きていきたいか考えてみよう。

(国語)「千年の釘にいどむ」	(道徳) 手品師(A 正直・誠実) 電池がきれるまで(D 生命の尊さ)	(学校行事) 社会見学 (特別活動) 茶碗づくり
----------------	--	-----------------------------

「手品師」の実践から (授業記録の抜粋)



- T 手品師は、もうひとつしたいことがあったんだけど男の子の約束の方を守った、そのことをどう思うか考えながら読みましょう。
 - T 自分が納得する生き方を選択するために、大事なことって何?
 - T 後悔しないような生き方を選ぶために大事なことって何かな。
- など、教師が発問し、その度に子供たちは下記のように自分に正直に生きることについて対話しながら深く考えていった。
- C 長年の夢と男の子とどちらを選ぶかで、手品師は納得して男の子を選んだ。自分で納得していないと、手品も男の子の前で成功しない。
 - C 人の笑顔を見たくて行っているの、約束を破って悲しむ顔を見たくないし、約束して一番笑顔になってくれる男の子のところに行く。
 - C これからの生き方を考えて、これからの人生がどうなっていくかを考えて、それで自分で判断して男の子のすることを選んだ。

実践者:坂本夏穂(和歌山市立八幡台小学校6年3組)

(道徳) 最後のおくり物 (B 親切 思いやり)

(体育) 「タグラグビー」

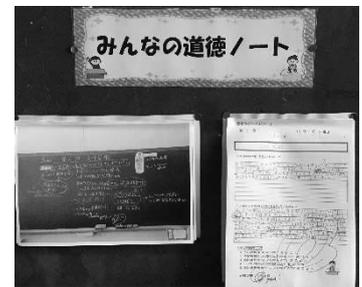
(特別活動) 修学旅行の学習発表会に向けて

「最後のおくり物」の授業展開の考察

本時は、主人公の心情に即した発問ではなく、主人公の行動や内容の意味や原因や理由を問う分析的な発問を多く行なった。展開部分での発問は大きく分けて3つである。本文の範読後、心に残ったところを出し合い、子どもたちから「自分を犠牲にしてまでお金を送って優しい」という意見が出たので、そこから補助発問や繰り返し発問を行った。

- ① お金を送ったことが優しさになるのでしょうか。
- ② どうしてジョルジュじいさんは、ロベータに対してそこまでできたのでしょうか。
- ③ ジョルジュじいさんのロベータに対する思いや行動から、「本当の親切」とは何だと思えますか。

この授業展開で行うことにより、教材を客観的に見て話し合いを行ったが、本当の親切とは「人の気持ちを理解し、知らない人でも助けられること」や「自分のことより人のことを優先できること」ではないかと話し合った。またワークシートには「今はジョルジュじいさんのようにここまではできないけれど、友達への挨拶や学級のために自分からできることをしたい。」と、今後の行動につながる意欲をもつことができたのではないだろうか。



(教室掲示・毎回の授業から)

実践者:山本会身子(和歌山市立松江小学校4年2組)

(道徳) 「なみだとえがおの『なでしこジャパン』」(C よりよい学校生活、集団生活の充実)

(体育) 「リレー」「バスケットボール」

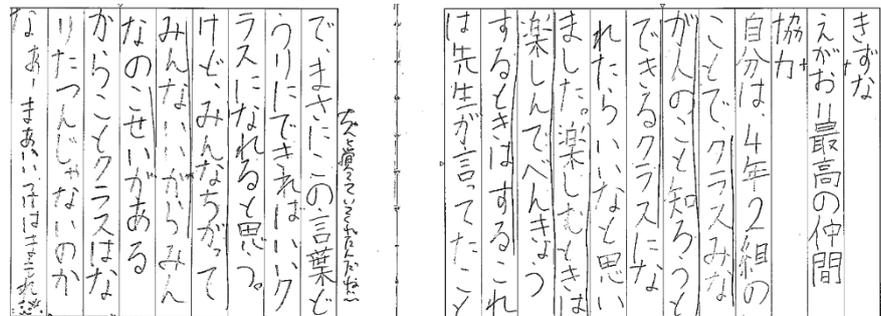
(日常活動・特別活動) 「係活動」「みんな遊び」「発表集会」

学年目標 仲間を大切に 2学期目標 すてきな自分とすてきな仲間

2012年のロンドンオリンピック決勝で『なでしこジャパン』は、アメリカと対戦することになった。「最高の仲間に出会い、全力で戦えたからこそ、金メダル以上の銀メダルになった。」という宮間選手の言葉から、最高の仲間とはどんなものなのかについて、考えることができる教材である。

【授業の流れ】当時キャプテンであった宮間選手の言動を通して「試合に負け、悔しさでいっぱいだった『なでしこジャパン』を笑顔に変えたものは何なのだろうか」ということについて話し合った。また、「最高の仲間をつくるために大切なことは何か」ということについて、自分の考えをノートに書き、グループの中で意見を交流させた。

【子どもの反応】子ども達から「最後はみんな笑顔で終わったかった。」「みんなの協力があったからこそ、笑顔になることができた。」等の意見が出された。

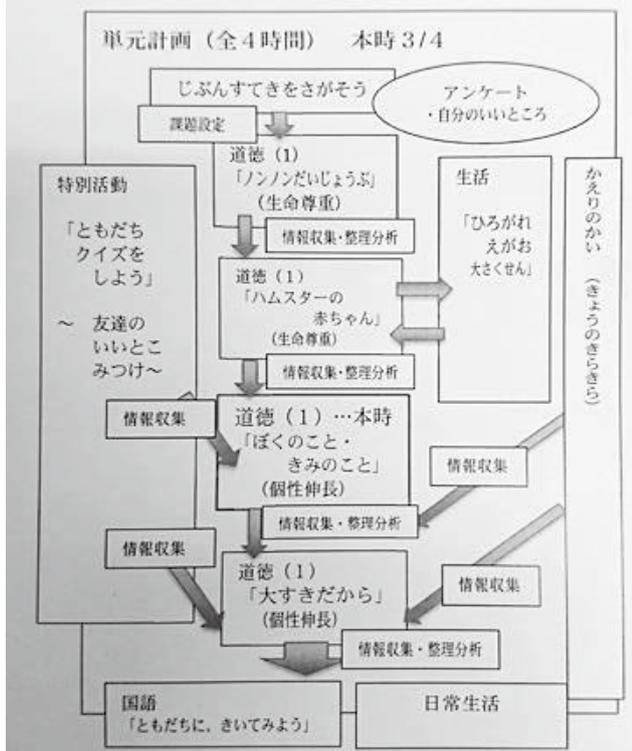


「最高の仲間をつくるために大切なこと」については、「きずな」「お互いを信じる心」「たすけ合い」「ケンカしても仲直りできる」等の意見が出た。

実践者：田中千映(和歌山大学教育学部附属小学校 1年B組)

単元の目標：自分のよさ(存在の素晴らしさや長所)に気づき、自分のよさに目を向け、自分に自信を持ち前向きに生活しようとする心情を育てる。

道徳科と特別活動・生活科を関連付けてカリキュラムを組み授業を行った。



道徳：「ぼくのこと きみのこと」(A 個性の伸長)

授業では、教材に出てくる「りく」「たくま」「ゆう子」のよいところと苦手なことを話し合った後、自分のよいところを考えた。その後、さらに自分のよいところを友達に聞く活動を取り入れた。



授業記録より抜粋

T:お友達から聞いた新しい自分のいいところあった?
 C:親切だよって教えてくれました。
 C:発表する時いい声だって言ってくれました。
 C:Yちゃんがやさしいって言ってくれました。
 T:そうなんだね、じゃあKくん。
 C:わすれました。
 T:書いてるやん、手をいっぱい挙げるって。
 C:すごいねって言われた。
 T:どんなところがすごい?
 C:走ったり、いろいろすごい。

授業記録より抜粋

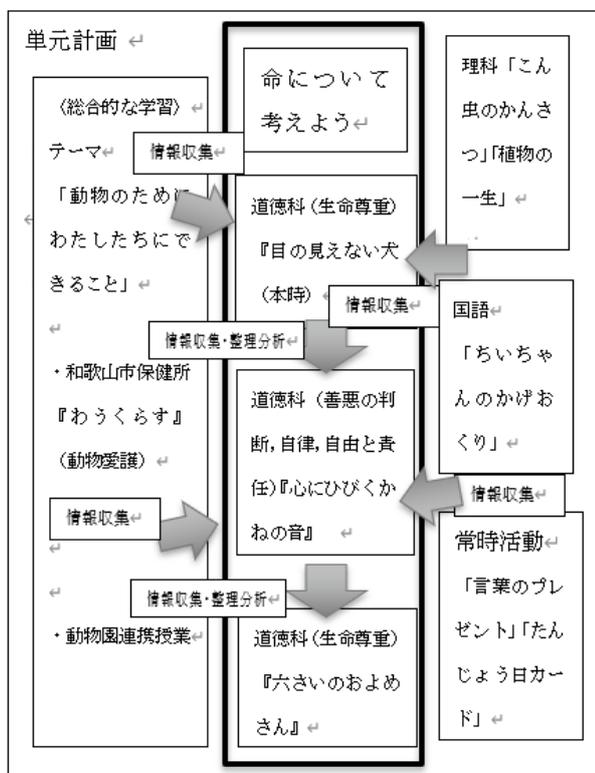
T:自分のいいところを教えてもらってどう思ったか教えてください。
 C:みんなぼくのよいところを知ってるんやなって。
 C:みんなが私のことをこんなこと思っていたの言ってもらったし、嬉しかったです。
 T:みんながこんないいことを思ってくれているってこと?嬉しいよってね。
 C:みんなに言ってもらったことを続けたほうがいいと思った。
 T:どうしてそう思ったのかな?
 C:ぼくはいいことが一個しかなかったから、続けなくていいところがなくなってしまう。
 C:自分のよいところをもっと増やしたいと思いました。
 T:どうしてそう思ったの?
 C:もっと増やしたら、ありがとうとかお母さんに言ってもらえるから、だからもっと増やしたい。①
 C:こんなところが自分がいいんやなって思った。ちょっと意外だった。
 C:こんなにいいところあったんやなってわかった。

本時に至るまでに、特別活動で「友達のいいところ見つけ」に取り組んできた。そのため、本時で子どもたちは、自分や友達のよいところに目を向けやすく、友達のよいところを積極的に伝えることができた。また、生活科「ひろがれえがお大きくせん」に取り組み、お家の方に「ありがとう」「すごい」などの声掛けをもらってきている。①は、その経験と重ね合わせての発言であると考え。特別活動や生活科とカリキュラムを組んだことで、本時において、子供たちは、自分のよいところを伝えてもらう活動により、深まりが生まれた。また、事後の道徳「大すきだから」においても、自分や友達の得意なことに積極的に目を向けようとする姿が見られた。

実践者：糸我 直人(和歌山大学教育学部附属小学校 3年B組)

単元の目標：命あるものすべての大切さに気づき、さまざまな生命を大切にしようとする心情を育てる。

◎道徳的価値に関する体験などを生かしたカリキュラム・デザインを行った。



◎道徳：「目の見えない犬」(D 生命の尊重) の実践より

授業記録より抜粋

T:なぜ、きまりを変えてまで飼おうとしたのかな。
 C:捨て犬で目が見えないので飼ってあげないとかわいそう。道を歩いていたらひかれるから、飼ってあげたほうがいい。
 C:殺処分されるから。
 C:もし自分が目が見えなくてせまいくところにいる、食べられなかったらいやだから助けてあげたい。
 C:ほっておいたら、愛護センターにひきとられて、運がよかったら新しい飼い主にひきとってもらえるけど、目の見えない犬だからよけいにひきとってもらえず殺処分されるから。
 T:でも、きまりをかえてまで飼っているの？
 C:どうしても助けたいという思いがある。
 T:どうしてそこまで思うの。
 C:助けないと死んでしまう。

1. 和歌山市保健所主催の「わうくらす」での体験活動

動物を通して命の大切さや他者とのかわりを学ぶことによって、子供たちの豊かな心を育むことを目的に実施している動物愛護啓発事業である「わうくらす」での体験と関連させた単元づくりを行った。

2. 学習環境の整備

命についての学習を深めるために、命や動物愛護に関する本の読み聞かせやコーナーを設けた。また、単元を通した教室掲示をした。



下線部の発言から「わうくらす」での自分の体験と重ね合わせながら考えようとする姿が見られた。

授業記録より抜粋

T:自分の命はだれに支えられているのかな？
 C:おばあちゃん。
 C:家族、ずっと『命のまつり』みたいにつながっている。
(命に関する本のコーナーから本を取り出し紹介しながら説明した)
 C:食べ物を作っている人。
 C:消防士さん。お医者さん。

下線部から、単元を通した学習と関連させやすくした環境により、学びをつなげようとする子供の姿が見られた。

このように日常生活と道徳とがつながり、子どもたちにとっては「探究力」を育むことに効果があったと言える。